



脳の真ん中には下垂体といって、色々なホルモンを分泌するところがあります。ちょうど脳の真ん中からぶら下がっているような形をしていますので「上下の下」「垂れる、垂直の垂」「体という字の体」とかいて「下垂体」といいます。この下垂体からはいくつかの大切なホルモンがでています。

たくさんのホルモンがありますが、今日は「元気」をだすホルモンについてお話します。元気がなくなるともちろん困ります。「元気」があるのはいいことじゃないか、と思いますが、体全体のバランスを無視して一部の機能だけが元気になりすぎると「機能が亢進」の状態となり病気を引き起こします。

主な二つのホルモンを紹介します。今日御紹介するのはACTHとTSHの二つです
二つとも正式名称はながいのでアルファベットでの大文字でお話します。

① ACTH

正式名は長いのでアルファベットでACTHとします。腎臓の上についている副腎という場所に指令をだしてステロイドを分泌させます。ステロイドの作用は複雑ですが、簡単に言うと体を元気にするホルモンです。ここにACTHを産生する良性腫瘍ができて、ACTHが多すぎるとクッシング病といって糖尿病、高血圧を招き、太ってきます。糖尿病、高血圧はもちろん成人病ですので脳卒中や心筋梗塞などの危険因子です。太ってきますが、ちょっと普通の太り方とは違った特徴があります。満月様顔貌といって全体的に顔の下の方の頬っぺたや下顎中心に太ってくる感じです。中心性肥満といって下腹部を中心に、ちょうどリングではなく「洋ナシ」のような太り方をしてきます。また背中から肩にかけて太ってくる、「水牛様の肩」も特徴です。もし、このような太り方をしてきた場合には、クッシング病のことも思い出してみてください。ACTHを産生する下垂体腫瘍の第一の治療は手術で摘出することです。全身麻酔で鼻の穴から到達するので頭をあげる、開頭を必要とすることはほとんどありません。十分にホルモンが低下しなかったときには薬の治療を追加します。太ってくるという美容だけではなく、高血圧、糖尿病という成人病に関わってきますので治療が必要になります。

② TSH

これも正式名は長いのでアルファベットでTSHとします。首の前にある甲状腺に指令をだして甲状腺ホルモンを分泌させます。甲状腺ホルモンの作用も複雑ですが簡単に言うとやはり体を元気にするホルモンです。TSHを過剰に賛成する下垂体腫瘍は少ないです。ただし、下垂体に関係なく、甲状腺が腫れて甲状腺ホルモンが多すぎるとバセドウ病という内分泌の病気になります。バセドウ病は内科の疾患ですが20～40代の女性におおいです。全身の代謝がバランスをとらずに亢進します。眼球突出や心臓の脈が速くなる頻脈、時に心房細動という不整脈を起こします。食欲亢進や手や指が小さく震える、汗をかきやすいなどの症状が出てきます。薬の治療が必要となります。

今回は脳下垂体ホルモンで「元気」をだす二つのホルモン、ACTH、TSHについてお話ししました。過剰なホルモンによって体全体のバランスをとらずに「元気」になると成人病や不整脈などの病気を引き起こします。ACTHでは、洋ナシ体型での太り方にも注意してみましょう。